

日本地域におけるコメツキムシ科の分類学的覚書 (I)*

鈴木 互**

日本のコメツキムシ科については、これまでに多くの分類学的な研究が公表されており、その概要については、ほぼ明らかにされたといってもよいだろう。しかし、戦前までに命名記載された種については、簡単な形態記載のもとに命名されたケースも多く、原記載を読んだだけでは正確に種の同定ができないものも多い。それゆえ、われわれが現在、種と呼んでいるものの中にも、本当に原著者がいっていた種であるのかどうか疑問がもたれるものや、戦前に記載されて以降まったく追加記録のない不明種や疑問種というものも多い。このような問題を解決するには、基準標本や実際に記録に用いられた標本を再検討するのがもっとも確実な方法ではあるが、コメツキムシの基準標本の大半が外国に保管されている日本においては、検討することがこれまで容易ではなかったようだ。近年になって大平博士はヨーロッパ各地に保管されている基準標本を盛んに調査し、これまで容易に認識することのできなかつた種を中心に多くの不明種の正体を明らかにしている。しかし、まだ検討を要するものがいくつも残されているようである。

筆者は1985年と1986年に

ヨーロッパや台湾の研究機関を訪ね、日本各地から記載された多くの基準標本や記録に用いられた標本を調査することができた。その結果、分類学的に新たな処置を必要とするものや分布について書き留めておく必要のある種がいろいろと出てきた。そこで、調査が明らかになったものについてここに報告していこうと思う。ここで取り扱うコメツキムシは、日本産のものだけに限らず、日本と生物地理学的にも関係の深い大陸地域や樺太、台湾といった近隣地域のコメツキムシについても触れてみたいと考えている。

本文に入るに先立ち、有益な助言を賜った生理学研究所の大平仁夫博士、コメツキムシの基準標本の調査に際し、種々ご配慮頂いた Miss C.M.F. von HAYEK (British Museum, Nat. Hist.), Dr. C. GIRARD, Dr. N. BERTI, Dr. J. CHASSAIN (Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris), Dr. L. BAERT, Mr. J. COOLS (Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique), Dr. S.-C. CHIU (Taiwan Agricultural Research Institute, Taichung) の各氏に厚くお礼申し上げます。

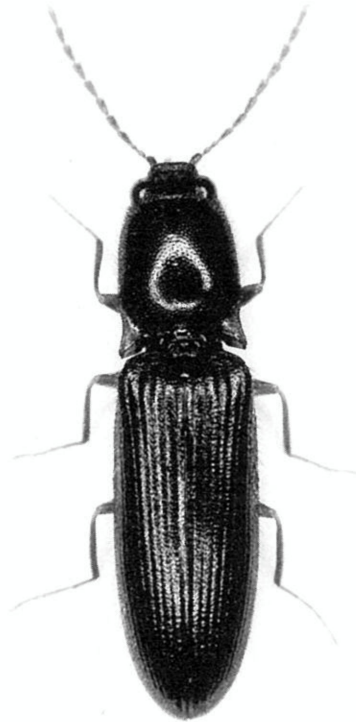


図 1. *Elathous brunneus* (LEWIS), クライロツヤハダコメツキ, ♂; 愛媛県ナラバラ山産。

* Taxonomic notes on the Far Eastern Elateridae (Coleoptera)(I)

** Wataru SUZUKI, Laboratory of Entomology, Tokyo University of Agriculture, Sakuragaoka, Setagaya-ku, Tokyo 156, Japan

(1) 92 年ぶりに発見されたコメツキムシ
Limonius brunneus LEWIS について

Limonius brunneus は、1881年に LEWIS が Nikko (日光) で採集した 2 個体の標本に基づいて、1894年に記載されたコメツキムシである。しかし、その後の記録はまったくなく、これまで謎の種とされてきた。日本のコメツキムシをまとめた Miwa (1934) も本種については言及せず、LEWIS (1894) の原記載を引用するにとどまり、その実体についてはまったく不明であった。岸井 (1985 a) は LEWIS の原記載から判断してカタアカホソコメツキムシ *Athousius humeralis* (Miwa, 1927) の♀の可能性を示唆したが、大平 (1985) は、本種の基準標本を調査し、岸井の前出の種とはまったく異なるコメツキムシであることを指摘した。さらに大平 (前出) は、本種の特異な形態を記載し、その特徴から *Scutellathous* や *Harminathous* といった日本の属に近縁なグループ [日本から既知の属には当てはまらない別の属] に所属するものだろうと述べた。

筆者は幸いにも一昨年本種の基準標本を British Museum (Nat. Hist.) で検することができ、本種が *Elathous* 属に所属するものであることを確かめることができた。調査することのできた 1♂1♀の標本はいずれも syntype とされていたので、この機会に♂を lectotype に、♀を paralectotype に指定しておきたい。また、昨年フランスを訪ねた

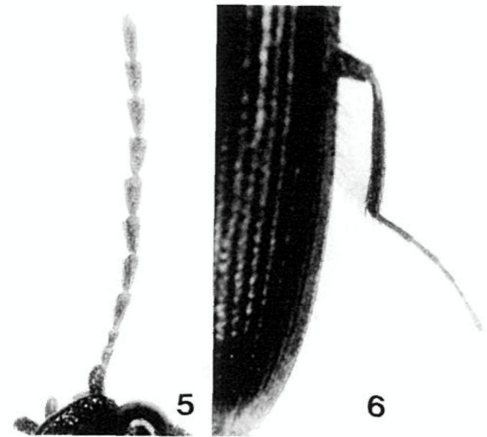


図 5-6. *Elathous brunneus* (LEWIS), クリイロツヤハダコメツキ, ♂; 愛媛県ナラバラ山産。— 5, 右触角 (right antenna); 6, 右後肢 (right hind leg)。

際、本種と思われる四国产の標本を偶然 Dr. CHASSAIN のコレクションの中から見いだすことができたので、ここに原記載以降最初の記録として報告しておきたい。

Elathous brunneus (LEWIS, 1894), comb. nov. クリイロツヤハダコメツキ (改称) (図 1-6)

Limonius brunneus LEWIS, 1894, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 13: 195-196 (Nikko).— SCHENKLING, 1927, Coleopt. Cat., pars 88 (Elateridae II): 292.—MIWA, 1934, Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, Taihoku, (65): 106-107.—OHIRA, 1970, Nature and Insects, Tokyo, 5 (7): 24.—KISHII, 1985, Gekkan Mushi, Tokyo, (175): 9.—OHIRA, 1985, Coleopterists' News, Tokyo, (70): 5, fig. *Limonius brunnea*: MITSUHASHI, 1936, In Toshogu, Plants and Animals of Nikko. p. 440.—INAIZUMI, Bull. Coll. Agr. Utsunomiya. Univ., 6 (1): 32.

体長約 10 mm。体は細く、ほぼ平行状。背面は栗色を呈するが、前胸背板基部および上翅両縁は赤褐色となる。触角は褐色で、肢および腹面は黄褐色～赤褐色を呈する。頭部はヘン状の点刻をやや密布する。前胸背板はやや膨隆するが、後方中央部には不明瞭な刻印が認められる個体 (日光産) や、消失する個体 (四国产) がある。前胸背板表面はヘン状の明瞭な点刻をやや散布し、強い光沢を有する。前胸両側は、♂では後角手前でやや強く湾入し、後方にやや広がるが、♀では弱く波曲し、後方へ伸びる。

本種の生態については不明であるが、これまでに得られた標本のデータから考えると、

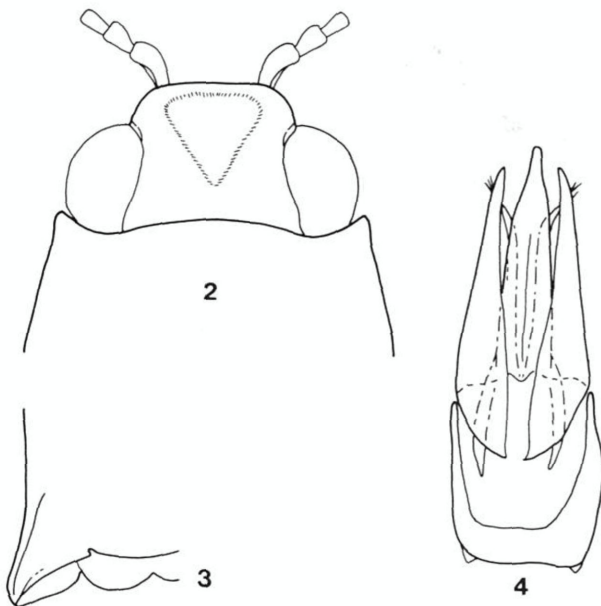


図 2-4. *Elathous brunneus* (LEWIS), クリイロツヤハダコメツキ, ♂; 愛媛県ナラバラ山産。— 2, 頭部 (head); 3, 前胸背板左後角 (left posterior angle of pronotum); 4, 雄交尾器腹面 (male genitalia, ventral view)。

他のコメツキムシなどに比べて遅く出現するようである。

分布：本州，四国（新記録）。

LECTOTYPE (here designated) ♂, with the following inscription on four labels: "11. 8. 81 [underside of card mount]"; "Nikko. 10. viii. -18. viii. 81"; "*Limonius brunneus* Lewis ♂ Type"; "SYNTYPE" (in coll. Brit. Mus. Nat. Hist.; Elateridae box no. 374). Paralectotype ♀, with the following inscription on four labels: "11. 8. 81 [underside of card mount]"; "Nikko. 10. viii. -18. viii. 81"; "*Limonius brunneus* Lewis ♀ Type"; "SYNTYPE" (in coll. Brit. Mus. Nat. Hist.; Elateridae box no. 374). 1♂ (figs. 1-6), Mt. Narabara, Ehime pref., Shikoku, Japan, 10. viii. 1975, Y. YAMAOKA leg. (New to the fauna of Shikoku; in coll. Dr. CHASSAIN, France).

Elathous は、ヨーロッパ産の2種のコメツキムシに対して、1890年に REITTER によって設立された属である。比較的小きな属で、これまでにヨーロッパから3種、北米から4種〔うち1種は synonym という〕が知られているにすぎない。本属は SCHWARZ (1906) によって、*Leptoschema* 属の synonym として取り扱われたこともあったが、口器の開き方の違いから区別され、現在両者はそれぞれ異なる族に納められている (STIBICK, 1970)。

本属は次のような特徴を有する。頭部 (図2) は前縁近くで強くくぼみ、前縁は前方へ伸張り切断される。触角は短く、前胸後角に届く程度、第2・3節は短い、幅よりは長い。第2節は3節よりわずかに長く、これらを合わせたものは第4節とほぼ同長もしくはわずかに長い。第4節より鋸歯状を呈するが、その程度は先端に向かって徐々に弱くなる。複眼は大きく、その幅は両複眼間の半分より幅広い。前胸背板は長く、後角には1本の隆起線を側縁に沿って備える (図3)。前胸側板後縁はほぼ直線状で、後角の近くで内方へ湾入しない。前胸腹板線は二重。附節は細長く、単純。

* この属は *Taiwanathous* 属や *Harminathous* 属に似ているが、触角第2・3節が短いことで容易に区別することができる。

(2) *Corymbites praenobilis* LEWIS と *Corymbites notabilis* var. *niger* MIWA について

Corymbites praenobilis LEWIS は、Idzu, Yokohama, Yuyama の3カ所を模式産地として記載されたコメツキムシである。これまでにいくつかの記録があるが、いずれも本種を正確にとらえたものではないようである。本種の syntypes は現在 British Museum (Nat. Hist.) と台湾省農

業試験所の2カ所に保管されている。このうち、LEWIS が "Type" とラベルに記した Idzu 産の個体〔=本論文で lectotype に指定する〕は BM にあるが、これは図7に示したように、CANDEZE が Japon から1889年に記載したオオシモフリコメツキ *Corymbites orientalis* [現在は *Actenicerus* 属に所属している] と同じものであることが、今回の type 調査によって判明した。一方、Yuyama 産の syntype は台湾省農業試験所にあるが、この個体は "Type" と記した Idzu 産のものとはまったく異なる形態を有していた。そして、これがわれわれがクロナガヒラタコメツキ *Paraphotistus praenobilis* (LEWIS) という名前で従来呼んでいたものに一致することが明らかになった。

1928年に MIWA は、Mt. Takao で採集されたコメツキムシ〔個体数不明〕に対し、*Corymbites notabilis* var. *niger* と命名したが、のちに MIWA (1934) は、台湾にある前出の Yuyama 産の syntype を調査し、この変種を *praenobilis* の synonym として処理している。しかし、先に述べたように、LEWIS が "Type" と記した標本はオオシモフリコメツキの synonym であることが判明したので、従来クロナガヒラタコメツキと呼んでいたものに対して *niger* という学名が生きてくることになる。

以上のようなことから両種の学名を整理すると次のようになる。

Actenicerus orientalis (CANDEZE, 1889)
オオシモフリコメツキ (=ヒメシモフリコメツキ)

Corymbites orientalis CANDEZE, 1889, Annl. Soc. ent. Belg., Bruxelles, 33: 114 (Japon) [examined, syntypes?].

Corymbites (Actenicerus) pruinosus: SCHENK-LING, 1927, Coleopt. Cat., pars 88 (Elateridae II): 368 (Japan) (part).

Corymbites (Actenicerus) pruinosus MOTSCHULSKY var. *orientalis*: MIWA, 1934, Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, Taihoku, (65): 115-116.

Actenicerus akitu KISHII, 1955, Akitu, Kyoto, 4: 20 & 22, figs. 2-3, 7, 15 and 20 (Kasuga, Nose-Myoken, Sukayu, Oze, Aizu, Noziri, Shigakogen, Kamikochi, Gifu, Serio and Mt. Daisen).

Molloya akitu: BABA & ÔHIRA, 1956, Kontyû, Tokyo, 24: 10 (Sado Is.).—KISHII, 1958, Ent. Rev. Japan, Osaka, 9: 28 (Sobosan, Takatihonome).

Actenicerus orientalis: ÔHIRA, 1970, Nature and Insects, Tokyo, 5 (9): 20, figs. 264, 273.

Corymbites praenobilis LEWIS, 1894, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 13: 259 (Idzu, Yokohama and Yuyama) [examined, fig. 7].
Syn. nov.

* *Taiwanathous* 属と *Harminathous* 属については、別に報告の予定。

Corymbites (*Neopristilophus*) *praenobilis*: SCHENKLING, 1927, Coleopt. Cat., pars 88 (Elateridae II): 384 (Japan).

分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 対馬).

Corymbites orientalis CANDÈZE. SYNTYPES?: lex. [19.5–20 mm], with the following inscription on five labels: "Coll. R.I. Sc. N.B./Japon"; "Collection E. CANDÈZE"; "n. sp. *Orientalis* cdz Japon"; "*Corymbites orientalis* Cand. dét. E. Candèze"; "E. Candèze vid *Corymbites orientalis* Cand.". lex. [15.5 mm], with the following inscription on four labels: "Coll. R. I. Sc. N. B./Japon: "Collection E. CANDÈZE"; "*Corymbites orientalis* Cand. dét. E. Candèze"; "E. Candèze vid *Corymbites orientalis* Cand.". (both in coll. Inst. Roy. Sci. Nat. Belgique; Elateridae box no. 489).

Corymbites praenobilis LEWIS. LECTOTYPE (here designated), sex undetermined, with the following inscription on five labels: "Japan. G. Lewis. 1910–320."; "Idzu may 15"; "*Corymbites praenobilis* Lewis Type"; "SYNTYPE"; "Type H. T." (in coll. Brit. Mus. Nat. Hist.; Elateridae box no. 395). Paralectotype: -lex., with the following inscription on four labels: "Japan G. Lewis 1910–320."; "*Corymbites praenobilis* Lewis Co type"; "White leg"; "SYNTYPE" (in coll. Brit. Mus. Nat. Hist.; Elateridae box no. 395).

Paraphotistus niger (MIWA, 1928), comb. et stat. nov. クロナガヒラタコメツキ (図 8)

Corymbites notabilis CANDÈZE var. *niger* MIWA, 1928, Insecta Matsum., Sapporo, 2: 142, pl. 5, fig. 18 (Mt. Takao) [examined, fig. 8].

Corymbites (*Selatosomus*) *notabilis* CANDÈZE var. *praenobilis*: MIWA, 1934, Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, Taihoku, (65): 121 (nec LEWIS, 1894) (part).

Paraphotistus notabilis CANDÈZE ab. form *praenobilis*: KISHII, 1966, Elateridae of Kyoto and its adjacent region. Biol. Lab., Héian High School, Kyoto, p. 54 (Kibune, Ofuse, Nanzenji).

Paraphotistus praenobilis: KISHII, 1982, Bull. Héian High School, Kyoto, (26): 39 (nec LEWIS, 1984).

分布: 日本 (本州).

このコメツキムシは, KISHII (1966) によってオオナガヒラタコメツキを基に *Paraphotistus* 属が設立された際には, *notabilis* の異常型として

処理されたが, のちに KISHII (1982) によって独立種とされた. 最近になって岸井 (1985 b) は, *Paraphotistus* を *Aphotistus* 属の亜属として扱っているが, ここでは従来扱いのままにしておいた.

LECTOTYPE (here designated), sex undetermined, with the following inscription on six labels: "Mont Takao, pr. Hachioji; Japon: 18–5–13 Edme Gallois"; "*Corymbites notabilis* var. *niger* det. Y. Miwa."; "*Corymbites notabilis* var. *niger* DET. Y. Miwa"; "1243"; "Type" (in coll. Taiwan Agricultural Research Institute, Taichung).

(3) *Berninelsonius hyperboreus* (GYLLENHAL, 1829) について

本種は全北区の北部地域に広く分布する種で, 日本のチャグロヒサゴコメツキやミヤマヒサゴコメツキに見似たコメツキムシである. 極東地域からは満州, アムール, カムチャツカ半島などから知られ, 日本からも STIBICK (1979) によって記録されている. 筆者は, STIBICK の日本からの記録に疑問をもち, ヒサゴコメツキの仲間の標本があればとくに注意してきたが, いまだに本種に相当するコメツキムシは日本地域から見いだせないでいる. STIBICK やヨーロッパのコメツキムシの研究者によれば, "本種は決して珍しい種ではなく, 生息地がわかれば多くの個体を見出すことができる" としている. もし, 日本に本種が分布しているのなら, これまでどこかで少しぐらい採集されていてもよいはずである. それなのに, STIBICK (1979) の記録以外これまでに日本からまったく記録がないということは, 暗に本種の生息の可能性を否定しているのではないだろうか.

筆者は, STIBICK (1979) が日本から記録するのに用いたと思われる標本を, ベルギー王室自然科学研究所で調査することができた. 標本の状態はあまりよくなく, 触角は基部近くから欠損してしまっていたが, 明らかに本種であった. データーは CANDÈZE の手書きで "Japon" となっており, 残念ながら詳細な地名についてはわからなかった. ベルギーの CANDÈZE の collection は, 標本やラベル, 針の状態のとくに悪いものは, 標本を作り直してある場合も多いので, その際ラベルの付け間違いがあったのかもしれない. しかし, 日本の北部近隣地域からは多くの記録がなされていることを考えると, まだ調査の十分でない北海道あたりは注意が必要かもしれない.

ここでは, 日本からこのような種のコメツキムシが記録されていることを紹介するとともに, 新たに北朝鮮の分布の確認ができたので報告しておきたい.

Berninelsonius hyperboreus (GYLLENHAL, 1827) (図 9)

Elater hyperboreus GYLLENHAL, 1827, Ins. Suec., 4: 35 (Lapland).

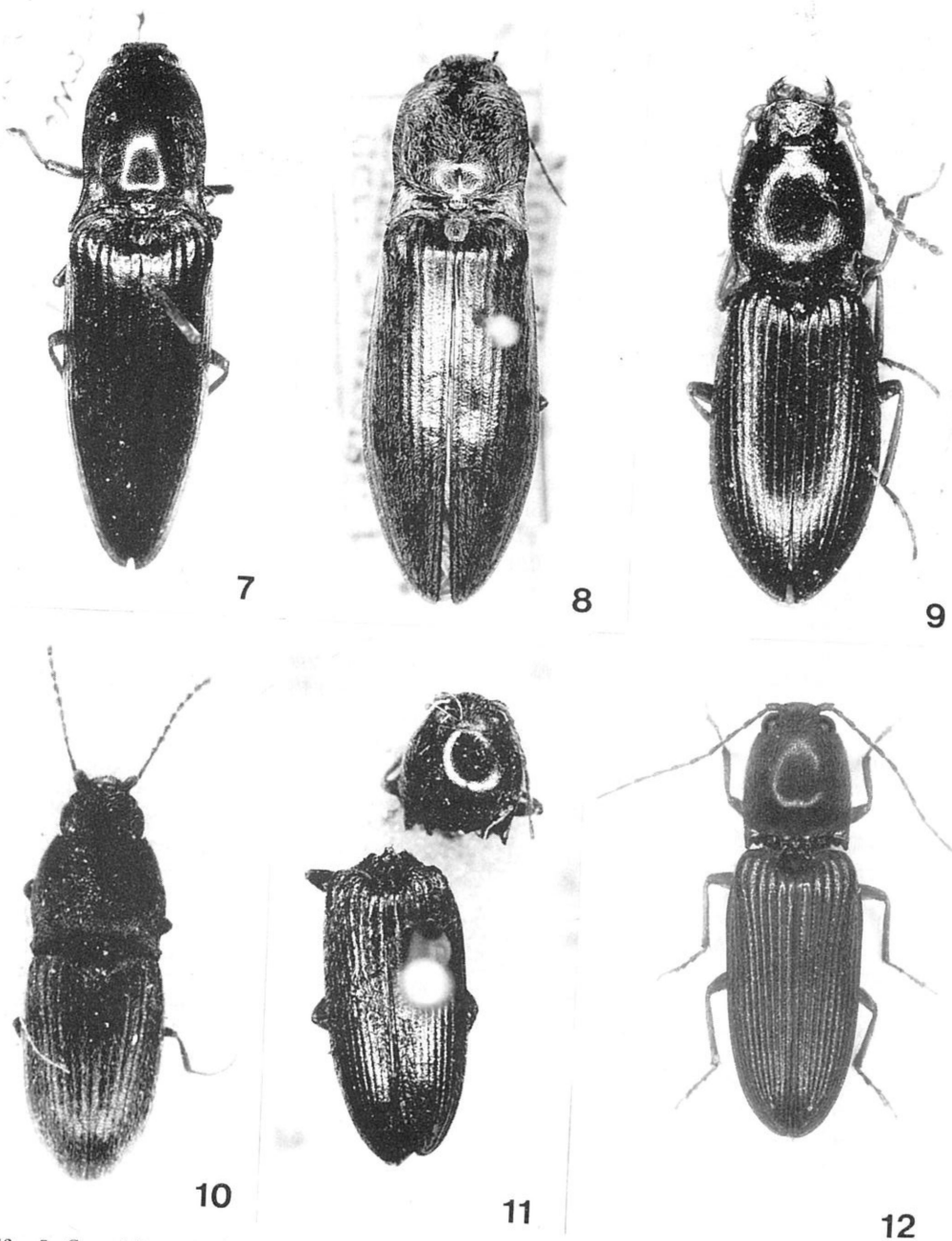


図 7-12. 7, *Corymbites praenobilis* LEWIS の Lectotype 標本 (大英博物館所蔵); 8, *Corymbites notabilis* var. *niger* MIWA クロナガヒラタコメツキの Lectotype 標本 (台湾省農業試験所所蔵); 9, *Berninelsonius hyperboreus* (GYLLENHAL), ♂, 北朝鮮白頭山産 (台湾省農業試験所所蔵); 10, *Cryptohypnus cinctus* LEWIS の Lectotype 標本 (大英博物館所蔵); 11, *Cardiotarsus pallidipes* MIWA ヒラアシハナコメツキの Syntype 標本 (台湾省農業試験所所蔵); 12, *Cardiotarsus yamazakii* ÔHIRA ヤマザキヒラアシハナコメツキ, 沖縄県沖縄本島与那覇岳産(筆者所蔵).

Elater planatus ESCHSCHOLTZ, 1829, In THON, Entomologisches Archiv, 2 (1): 34.

Cryptohypnus hyperboreus: GERMAR, 1844, Z. Ent. (Germar), 5: 134.

Solierocerus hyperboreus: MOTSCHULSKY, 1859, Bull. phys. math. Acad. St. Petersb., 3: 228.

Hypnoidus hyperboreus: SCHWARZ, 1906, In WYTSMAN, Genera Ins., 46 (Elateridae): 152.

Hypnoidus (*Cryptohypnus*) *hyperboreus*: SCHENKLING, 1925, Coleopt. Cat., pars 80 (Elateridae I): 200.

Hypolithus (*Hypnoidus*) *hyperboreus*: LANE, 1948, Proc. ent. Soc. Wash., 50: 223.

Hypnoidus (*Hypnoidus*) *hyperboreus*: HORION, 1953, Ent. Arb. Mus. Frey, Tutzing, 3: 215.

Berninelsonius hyperboreus: LESEIGNEUR, 1970, Suppl. Bull. mens. Soc. linn. Lyon, 41: 105.

体長 5-7 mm. 体は細長く扁平で、色彩は黄褐色から暗赤褐色まで変異がみられる (今回調査できた北朝鮮産の個体は、すべて黄褐色であった). 前胸背板は幅/長さがほぼ等しく、表面はまばらに点刻を備えるが、中央には縦隆線をもたない。後胸腹板と後翅の長さはともに正常で、いちじるしく縮小したりしない。

本種は一見、チャグロヒサゴコメツキ *Hypolithus brunneofuscus* (NAKANE, 1954) に似るが、体はより小型で扁平であること、♂交尾器側片先端部は単純で、外側にまったく突出しないなどの点で区別することができる。

分布: ヨーロッパ (アルプス山脈周辺地域, ラップランド), ロシア, モンゴル, 北朝鮮 (新記録), 満州, 日本 (?), アラスカ。

lex., with the following inscription on five labels: "Coll. R. I. Sc. N. B./Japon:"; "Collection E. CANDÈZE"; "Saxatilis Lew. Japon [CANDÈZE's handwriting]"; "Cryptohypnus saxatilis Lew. dét. E. Candèze"; "Rhigisbernus hyperboreus Gyll. Det. J. N. L. Stibick 1967" (in coll. Inst. Roy. Sci. Nat. Belgique). 15 exs. (fig. 9), Hakutosan, North Korea, 31. vii. 1935, T. KUSANAGI leg. (New to fauna of North Korea; in coll. Taiwan Agricultural Research Institute, Taichung).

(4) *Cryptohypnus cinefactus* LEWIS について

このコメツキムシは、G. LEWIS により Nikko (日光) で発見記載されて以降まったく追加記録のない種である。本種の所属については、これまでさまざまな意見が出されているが、いまだに本種と認められる標本が得られていないところから考

えると、LEWIS (1894) の原記載から判断し、処理されたものと思われる。筆者は、British Museum (Nat. Hist.) に保管されている 1 個体の syntype を検することができた。標本は、図示したような形態を呈し、KISHII (1976) が推定したように *Pronegastrius* 属の *Chibistrius* 亜属に所属するものであることが判明した。

LEWIS (1894) は、本種を記載するにあたり、検視標本数を明らかにしなかった。そのため、今回調査できた標本 (syntype) 以外にも、どこかに syntype (s) が保管されている可能性があるが、BM の標本には、LEWIS 自身が直筆で "Type" と記したラベルが付いており、原記載にもよく一致するので、この個体を lectotype としてここで指定しておきたい。

Pronegastrius (*Chibistrius*) *cinefactus* (LEWIS, 1894) (図 10)

Cryptohypnus cinefactus LEWIS, 1894, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 13: 188-189 (Nikko) [examined, fig. 10].

Quasimus cinefactus: SCHENKLING, 1925, Coleopt. Cat., pars 80 (Elateridae I): 215.

Zorochrus cinefactus: MIWA, 1934, Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, Taihoku, (65): 90.

Hypnoidus cinefactus: MITSUHASHI, 1936, In Toshogu, Plants and Animals of Nikko. pp. 439-440.

Negastris cinefactus: INAZUMI, 1965, Bull. Coll. Agr. Utsunomiya Univ., 6 (1): 27. — ÔHIRA, 1970, Nature and Insects, Tokyo, 5 (2): 33.

Pronegastris? (*Chibistrius*) *cinefactus*: KISHII, 1976, Bull. Héian High School, Kyoto, (20): 27.

今回の LEWIS の基準標本の調査によって、本種は KISHII (1976) が Marunuma in Nikko (日光丸沼) から記載したニッコウチビミズギワコメツキ *Pronegastris* (*Chibistrius*) *nikkoensis* に酷似することがわかった。そこで筆者は、その基準標本と KISHII (1976) の *nikkoensis* の原記載とを詳細に比較検討したが、色彩や形態的特徴はきわめてよく一致し、小楯板がいくぶん膨隆することや、上翅が基部近くで側方に拡張しない点以外には、決定的な区別点を見いだすことができなかつた。両種の type locality が Nikko であることから考えると、これらは同じ種である可能性が高いが、ともに原記載以降まったく発見されていないので、ここではなんともいえない。今後、多くの個体をそろえうえて再検討する必要がある。

分布: 本州 (日光)。

LECTOTYPE (here designated), sex undetermined, with the following inscription on four labels: "Nikk [underside of card

mount]"; "Japan. G. Lewis. 1910-320."; "*Cryptohypnus cinefactus* Lewis Type"; "SYNTYPE" (in coll. Brit. Mus. Nat. Hist.; Elateridae box no. 341).

(5) ヤマザキヒラアシハナコメツキについて

ヤマザキヒラアシハナコメツキは、奄美大島で採集された個体に基づいて台湾のヒラアシハナコメツキ *Cardiotarsus pallidipes* MIWA の亜種として記載されたものである。その後、分布として沖縄本島が追加されたが、台湾のものとの亜種関係には疑問がもたれていた(鈴木, 1985)。昨年の春の調査で、台湾省農業試験所に新竹産のヒラアシハナコメツキの syntype 標本(図 11)が保管されていることがわかり、比較したところ両地域のヒラアシハナコメツキの間には、次のような違いがあることが明らかになった。

台湾産(図 11): 体は約 7 mm と小型で、黄褐色～茶褐色の触角と脚を除いて全体黒色。触角第 2 節は細長い、3 節よりわずかに短い。前胸は幅広く長さの約 1.15 倍に等しい。背板は強い光沢を有し、点刻は細かくまばら。前胸側縁は外方にやや張りだし、強く弧状を呈する。上翅条線は基部でやや強く印刻されるが、後方に向かって徐々に弱くなる。

日本産(図 12): 体はやや大きく強壯で、全体黄褐色～栗色を呈する。触角第 2 節は幅よりは長いが、第 3 節より明らかに短い。前胸は幅と長さほぼ等しく、背板は点刻を密布し光沢は鈍い。前胸側縁はほぼ平行で外方に強く張りだしたりしない。上翅条線は明瞭で後方まで強く印刻される。

以上のように、日本産のものは台湾産のものに比べかなり異なる形態を呈していたので、日本産のヤマザキヒラアシハナコメツキは台湾産の亜種ではなく、近縁の別種としてここでは取り扱うことにした。

Cardiotarsus yamazakii ÔHIRA, 1968, stat. nov. ヤマザキヒラアシハナコメツキ(図 12)

Cardiotarsus pallidipes yamazakii ÔHIRA, 1968, Bull. Aichi Univ. Educ., Okazaki, 17 (Nat. Sci.): 134 (Yuwan-dake).—ÔHIRA & SUZUKI, 1985, Coleoptera of Japan in Color, 3: 91, pl. 15, fig. 14.—SUZUKI, 1985, Gekkan Mushi, Tokyo, (178): 30, fig. B (Yonaha-dake).

分布: 琉球列島(奄美大島, 沖縄本島)。

lex., Mt. Yonaha-dake, Okinawa-honto Is., Ryukyu Is., Japan, 4. v. 1974, M. KAMISAKA leg.; 1 ex. (fig. 12.), same locality, 19. v. 1976, T. OGASAWARA Leg. (both in coll. W. SUZUKI, Tokyo).

Summary

In the present paper, six Far Eastern species of the family Elateridae are dealt with. The type series of the four Japanese forms, *Limonium brunneus* LEWIS, 1894, *Corymbites praenobilis* LEWIS, 1894, *Corymbites notabilis* var. *niger* MIWA, 1928, and *Cryptohypnus cinefactus* LEWIS, 1894, are examined and their lectotypes are designated.

1) *Limonium brunneus* LEWIS, is transferred to the genus *Elathous* REITTER and newly recorded from Shikoku. It has not been recorded from Japan since the original description given by LEWIS (1894). The genus *Elathous* is similar to the Far Eastern genera *Taiwanathous* MIWA and *Harminathous* KISHII in having large eyes, strongly produced frontal margin and distinctly concave frons, but can be distinguished from them by the 2nd and 3rd antennal segments, which are very small.

2) *Corymbites praenobilis* LEWIS is synonymized with *Actenicerus orientalis* (CANDEZE). *Corymbites notabilis* var. *niger* MIWA, which has long been regarded as a synonym of *C. praenobilis* LEWIS, is treated here as an independent species belonging to the genus *Paraphotistus* KISHII.

3) *Berninelsonius hyperboreus* (GYLLENHAL) is recorded for the first time from North Korea.

4) *Cryptohypnus cinefactus* LEWIS is transferred to the genus *Pronegastris* ÔHIRA. It is suggested that *Pronegastris* (*Chibistrius*) *nikkoensis* KISHII may be a synonym of *cinefactus*.

5) *Cardiotarsus pallidipes yamazakii* ÔHIRA is treated as an independent species.

参 考 文 献

- GUGLIELMI, A., et G. PLATIA, 1985. Contributo alla conoscenza degli Elateride di Grecia e Turchia (Coleoptera). *Fragm. ent., Roma*, 18 (1): 169-224.
- INAZUMI, M., 1965. A list of the Elateridae (Coleoptera) in Tochigi Prefecture. *Bull. Coll. Agr. Utsunomiya Univ.*, 6 (1): 19-50.
- 岸井 尚, 1955. 貴船溪谷及びその付近に産する珍しい叩頭虫(1). *Akitu. Kyoto*, 4: 19-22.
- 岸井 尚, 1958. 白水隆氏蒐集の九州産叩頭虫類. *昆虫学評論*, 9: 27-32.
- KISHII, T., 1976. New Negastrinae with some notes. Some new forms of Elateridae in Japan, X. *Bull. Heian High School, Kyoto*, (20): 17-45, pl. 1-6, table.
- 岸井 尚, 1980. 日本産シモフリコメツキ属の研究(2). *平安学園研究論集*, (24): 1-9, pls. 1-7.
- KISHII, T., 1982. New species and new records of Ela-

- teridae from Japan (Coleoptera). Some new forms of Elateridae in Japan, XVI. *Bull. Heian High School, Kyoto*, (26) : 35-55, pl. 1-4.
- 岸井 尚, 1985 a. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見 (4). 月刊むし, (175) : 8-10.
- 岸井 尚, 1985 b. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見 (5). 月刊むし, (177) : 19-22.
- LESEIGNEUR, L., 1972. Coléoptères Elateridae de la faune de France continentale et de Corse. *Suppl. Bull. mens. Soc. linn. Lyon*, 41 : 1-379.
- LEWIS, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6), 13 : 26-48, 182-201, 255-266, 311-320.
- 三橋信治, 1936. 日光の昆虫. 日光東照宮編, 日光の植物と動物 pp. 355-476. 養賢堂.
- MIWA, Y., 1928. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. *Insecta Matsum., Sapporo*, 2 : 133-146, pl. 5.
- MIWA, Y., 1930. Elateridae of Formosa (III). *Trans. nat. Hist. Soc. Formosa, Taihoku*, 20 : 1-12.
- MIWA, Y., 1930. Elateridae of Formosa (IV). *Trans. nat. Hist. Soc. Formosa, Taihoku*, 20 : 57-68.
- MIWA, Y., 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. *Dept. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa, Taihoku*.

○ホソハンミョウの北海道における 2 箇所目の

分布地

ホソハンミョウ *Cicindela (Eugrapha) gracilis* PALLAS は北海道ではかなり少ないものらしく、報告されているのは松本らによる旭川市の記録*のみのものである。筆者は下記において採集しているので、道内における 2 箇所目の分布地として報告しておく。

1♀, 小樽市緑, 7. ix. 1986, 楠井善久採集。

市街地に近い丘陵地の雑木林の路上にいたもので、採集時は飛翔しなかった。その後、翌日を含め 2, 3 回同地に行ったが、この個体以外には採集できなかった。なお、上翅には赤紋のない型である。

*松本英明・松本俊信, 1980, 甲虫ニュース, (50) : 15. (北海道小樽市, 楠井善久)

○ツメアカマルチビゴミムシシダマシの採集記録

ツメアカマルチビゴミムシシダマシ *Caedius fulvialtilis* NAKANE et MASUMOTO は 1979 年に長野県佐久市および東京都(?) 稲田多摩川産の標本を基に記載されたゴミムシシダマシであるが、後者については用いられた標本が 1935 年採集のものであり現在のどの場所に該当するかは残念ながら判然としない。

筆者は、かつて本誌 69 号 (1985) に神奈川県における本種の採集記録を報告したが、下記のとおり他の各地でも採集しているので報告しておきたい。現在までの既知産地は筆者の知るかぎりでは上記のほか、栃木県足利市のみである。

2 頭, 埼玉県熊谷市, 29. xi. 1984.

「埼玉県動物誌」(1978) には同じ熊谷市からマルチビゴミムシシダマシ *Caedius marinus* として記録があるがおそらく本種のことであろう。

(65) : 1-289, 9 pls.

OHIRA, H., 1968. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, IV (Coleoptera). *Bull. Aichi Univ. Educ., Okazaki*, 17 (Nat. Sci.) : 123-134.

大平仁夫, 1970 a. 日本のコメツキムシ (V). 昆虫と自然, 5 (7) : 19-24.

大平仁夫, 1970 b. 日本のコメツキムシ (VI). 昆虫と自然, 5 (9) : 15-23.

大平仁夫, 1985. *Limoniis brunneus* LEWIS というコメツキムシについて. 甲虫ニュース, (70) : 5.

大平仁夫・鈴木 瓦, 1985. コメツキムシ科. 黒沢良彦, 久松定成, 佐々治寛之 (編著), 原色日本甲虫図鑑, 3 : 52-92, pls. 10-16. 保育社, 大阪.

STIBICK, J. N. L., 1970. A revision of the genus *Leptoschema* of California with a key to related genera. *Pan-Pacif. Ent., San Francisco*, 4 : 153-166.

STIBICK, J. N. L., 1979. A revision of the Hypnoidinae of the world (Col. Elateridae). Part III. The Hypnoidinae of Eurasia. *Eos, Madrid*, 53 (for 1977) : 233-307

鈴木 瓦, 1985. 沖縄本島初記録のコメツキムシ 3 種. 月刊むし, (178) : 30.

VAN DYKE, E. C., 1932. Miscellaneous studies in the Elateridae and related families of Coleoptera. *Proc. Calif. Acad. Sci., San Francisco*, (4), 20 : 291-465

(東京農大)

4 頭, 東京都府中市住吉, 5. xii. 1984 ; 6 頭, 同秋川市二宮, 27. v. 1985 ; 7 頭, 山梨県山梨市小原西, 22. vi. 1985.

最後ではあるが、いろいろとご教示いただいた益本仁雄氏、ならびに標本撮影をお願いした酒井香氏に厚くお礼申し上げます。



(東京都世田谷区, 沢田和宏)

○サトウナガゴミムシを黒尊で採集

四国特産種のサトウナガゴミムシ *Pterostichus (Paralioae) satoi* ISHIDA は、これまで石鎚山系と高縄半島からのみ知られていたが、筆者らは、四国南西部の高知県西土佐村黒尊 (標高 850 m) で採集したので記録しておきたい。

1♂ 2♀♀, 6. ix. 1986. 広葉樹におおわれた溪畔のきわめて湿潤な土中から掘り出した。(千葉県船橋市, 笠原須磨生; 高知県高知市, 伊東善之)

○ヨツボシヒラタシテムシ属の第3の種の存在
(予報)

ヨツボシヒラタシテムシ属 *Dendroxena* MOTSCHULSKY は、ヨーロッパ産の *D. quadrimaculata* (SCOPOLI) と東シベリア、朝鮮半島 (MROCZKOWSKI, 1966) 及び日本に産するヨツボシヒラタシテムシ *D. sexcarinata* MOTSCHULSKY の2現生種*で構成される小属であるが、最近筆者は林業試験場の横原 寛氏のご厚意により、第3の種の存在を知ることができた。この *Dendroxena* sp. は、同氏のご教示によれば九州霧島山周辺でのみ、とくにいわゆる吹き上げて採集されるという。

手許の標本にもとづいた形態の相違としては、頭部の形状 (図1-3) と点刻の状態、触角の長さ、各節の形状、後腿節、♂交尾器の形状、翅鞘の後部黒紋の位置等に差異が認められ、既知の種と識別できるようである。また1♂のみでは少々心もとないので、川崎市の見山 博氏の保存する同一産地の個体についてもお調べいただいたところ、少なくとも触角の形状では区別できるとお知らせいただいた。

次にヨーロッパ産の *quadrimaculata* とは、FREUDE (1971)、REITTER (1908) や SCHAUFUSS (1916) を参照しても判然としなかったが、黒沢良彦博士のご厚意で、国立科学博物館動物研究部所蔵の England 及び Frankfurt 産を拝見することができ、厚木市の西村正賢氏からは Sweden 産の1♂を恵与され詳細に検討することができたので、霧島山産の個体が独立種であると確信するに至っている。

一方、*sexcarinata* には LEWIS (1888) が記載した *silvatica* なるシノニムがあるので、原記載に当たった所、基準産地は Chiuzenji, Junsai, Sapporo とあり、特に霧島山産に適合すると思える特徴は記されていないので、この種名を当てることはできないようである。なお文献を渉猟していく内に、MADGE (1980) は、従来使用されていた属名 *Xylodrepa* C.G. THOMSON を *Dendroxena* MOTSCHULSKY の新参客観シノニムとしていることが判った。

さて、この未記載種が九州にどのように分布しているかは不明だが**、図鑑等では *sexcarinata* の分布に九州もあがっており、両種が混同されている可能性もあるので、お手持ちの標本をご調査いただければ幸いです。また末尾ではあるが、これらの検討は上記諸氏のご助言とご協力がなければ、できなかったものであり、厚く御礼申し上げる次第である。

追記：ヨツボシヒラタシテムシ *Dendroxena sexcarinata* MOTSCHULSKY の利尻島の記録はないと思われるので、この機会に書き留めておきたい。

* 北ドイツ第三紀の地層から1化石種が知られる。

** 霧島山からは既に清水薫・他 (1969) により、*sexcarinata* としての記録がある。

1♂、北海道利尻島、10. vii. 1973、丸山清採集。標本を恵与された丸山 清氏に御礼申し上げます。

参考文献

- FREUDE, H., 1971. Familie: Silphidae. In FREUDE, H., K.W. HARDE & G.A. LOHSE (eds.), *Die Käfer Mitteleuropas*, 3: 190-201. Goecke & Evers, Krefeld.
- LEWIS, G., 1888. Notes on the Japanese species of *Silpha*. *Entomologist*, 21: 7-10.
- MADGE, R.B., 1980. A catalogue of type-species in the family Silphidae (Coleoptera). *Ent. scand.*, 11: 353-362.
- MROCZKOWSKI, M., 1966. Contribution to the Knowledge of Silphidae and Dermestidae of Korea (Coleoptera). *Ann. zool., Warszawa*, 23: 433-443.
- REITTER, E., 1908. *Fauna Germanica, Käfer*, 2. 392 pp., 39 pls. K.G. Lutz Verlag, Stuttgart.
- SCHAUFUSS, C., 1916. *Calwer's Käferbuch. Einführung in die Kenntnis der Käfer Europas*, 1, 6 ed. 709 pp., 20 pls. E. Schweizerbart's Verlag., Stuttgart.

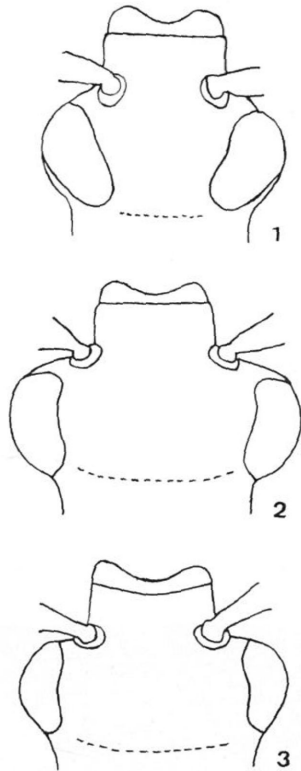


図1, *Dendroxena* sp., ♂ (九州霧島山産); 図2, *D. sexcarinata* MOTSCHULSKY, ♂ (神奈川県弘法山産); 図3, *D. quadrimaculata* (SCOPOLI), ♂ (Sweden産)。

(神奈川県座間市, 西川正明)

○ホソムネコチビシテムシ下甌島の記録 (チビシテムシ科分布資料 5)

ホソムネコチビシテムシ *Mesocatops japonicus* (JEANNEL) は、北海道、本州、四国*、九州に分布するが、筆者の 1 人今坂は下甌島に渡島した際、本種を得ているので分布資料として報告する。

1♀, 鹿児島県下甌島尾岳, 18. vi. 1982; 1♂1♀, 同, 20. vi. 1982, 今坂採集。

*四国の記録は見山 博 (1977, 四国虫報 (21): 109) によるが、特に四国未記録としている訳ではないので、それ以前に既に記録されているのであろう。なお末尾ながら上記の四国虫報を始め、本科甲虫に関する貴重な文献を恵与され、かつご助言もいただいている久松定成先生に厚く御礼申し上げたい。

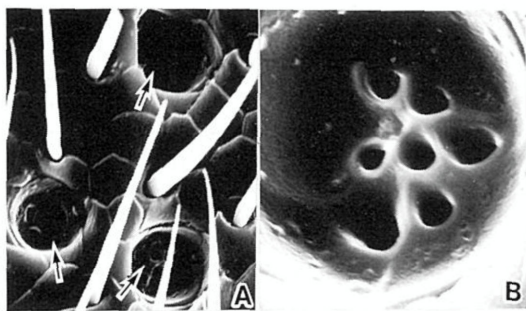
(神奈川県座間市, 西川正明;
長崎県島原市, 今坂正一)

○*Ascoliocerus* 属のコメツキムシ: 触角の知覚孔について

コメツキムシ類の触角は一般によく発達していて、それぞれの種の生息に重要な役割をしているものと思われるが、どのような知覚器官がそこに存在するのかよくわかっていない。

ここに示したのはヒラタクロコメツキ *Ascoliocerus saxatilis* (LEWIS) の触角にみられる知覚器と思われるもので、触角の第 4 節より第 11 節にかけて存在する。孔の直径は約 10μ (図 A, ↑) で円筒形状をしていて、その孔の底には数個から 10 個くらいの小孔が存在し、あたかも蓮根を輪切りにしたような形をしている (図 B)。この小孔の直径は $1\sim 2 \mu$ ほどで、その底にはおそらく知覚神経の末梢が存在しているものと思われる。そして、これはおそらく臭覚を感知する器官ではないかと想像される。

コメツキムシ類の中には、このような明瞭な知覚孔が認められるものと、よく存在がわからないものとかあり、本種のように明瞭にみられる例は少ない。また、このよく発達した知覚孔の存在が、本種の生息条件にどのようにかわかりあっているのかは明らかではない。



(岡崎国立共同研究機構, 大平仁夫)

○マメガムシの奇習

私がまだ旧制中学の後半で、山形県米沢市に住んでいた 1938 年頃のことであるが、友人の M 君の家の縁先に凝灰岩をくりぬいて造った手洗鉢がおいであった。その中にはよく数頭のマメガムシ *Regimbertia attenuata* (FABRICIUS) が泳いでいたが、縁先に腰を下して彼等の動作を見ていると、時々彼等は全く思いもよらない面白い動作を見せてくれた。

水垢の付着した手洗鉢の底や側面を這っていたものが、ぼっかりと水面に浮いて来ると間もなく、空気で銀色になった腹面を上にして、裏返しになって水面の裏側を歩き出すのだった。その様子は、まるで水面が一枚の布でもあるのかの様にごく自然でいささかも危ない気のない歩き方であった。彼等は、恐らくは、空気を摂りに水面に現れ、そのまま水面の裏側をつたい歩きをしたものであろう。水面上を表面張力によって歩行する虫はよく見かけるが、水面の裏面を泳ぐことなく、歩行する虫はまだ他に観察したことがない。旧い昔の記憶で恐縮ではあるが書き留めておく。(東京都世田谷区, 黒沢良彦)

○*Protaetia (Calopotisia) descarpentriensi*

RUTER 1978 の正体

フランスの故 Gaston RUTER は 1978 年にパリ自然史博物館昆虫部に所蔵されている R. OBERTHÜR のコレクション中の標本に基づき、沖縄本島から *Protaetia (Calopotisia) descarpentriensi* n. sp. と奄美大島からその亜種 *aeneonitens* n. subsp. を記載した。

この記載を読んでみると、前者は我々がオオリュウキュウハナムグリまたはリュウキュウオオハナムグリと称している *Protaetia lewisi* JANSON, 1888 のシノニム、後者は私がおの亜種として奄美大島から記載した *P. l. leachi* Y. KUROSAWA, 1959 (アマミオオハナムグリ) のシノニムに過ぎないことが判る。どうやらこの誤は有名な W. JUNK の甲虫目録に *lewisi* が欠落していることが原因しているらしい。

参 考 文 献

- JANSON, O.E. 1888. On some species of Cetoniidae from the Loo Choo Islands. *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6) 1: 194~196
- SCHENKLING, S., 1921. Fam. Scarabaeidae, Subfam. Cetoniinae. In JUNK, W., & S. SCHENKLING (eds.), *Coleopterorum Catalogus*, pars 72: 1~431. Berlin, W. JUNK.
- 三輪勇四郎, 中條道夫, 1939. 金龟子科. 日本産鞘翅目分類目録, 第 5 編. 台北市, 野田書房.
- KUROSAWA, Y., 1959. Notes on the Cetoniid-beetles in Japan and its adjacent regions (Coleoptera, Scarabaeidae). *Bull. natn. Sci. Mus.*, Tokyo, (44): 337~340.
- 八田耕吉, 佐藤正孝, 1971. 琉球列島のツヤハナムグリ属, I. 名古屋女子大学紀要, (17): 171~186.
- RUTER, G., 1978. Contribution à l'étude des Cétonides (Col., Scarabaeoidea). *Bull. Soc. ent. Fr.*, 83: 125~137. (東京都世田谷区, 黒沢良彦)

○中国産の麴より発生したワタミヒゲナガゾウムシ

ワタミヒゲナガゾウムシ *Araecerus fasciculatus* (DE GEER, 1775) は、世界各地に分布する小形のヒゲナガゾウムシである。この甲虫は、コメ、コムギ、ダイズ、アズキ、インゲン、トウモロコシ、アブラヤシ、コーヒー、コショウ、ニンニク、トウガラシ、ワタミ等の貯蔵農産物を食害することがこれまで知られている。また筆者は、1981年にジャワ島東部を旅行中、漢方薬を売っている店で、容器の中の植物質の漢方薬の上を徘徊している本種を数頭採集したことがあり、また全く同様なことをタイ国北部でも経験している。

本誌前号(第73号)で江本・海老原(1986)は、鉢植に使用する固形肥料で発生しているのを報告したが、今回筆者は九州大学農芸化学科発酵学教室の緒方靖哉助教授のご好意により、中国産の麴より発生した本種を検する機会に恵まれた。緒方博士のご教示によると、この麴は中国江蘇省無錫市二泉酒工場産のもので、黄酒(老酒に近い)用の米で作られた麴で、*Rhizopus* 属のカビが分離された、とのことである。筆者が検した標本は、1986年2月中旬に羽化した6頭であるが、この他に博士ご自身のお手許や森本桂先生の所にも所蔵されている。また同博士は幼虫・蛹をも同麴中より見出されている。

末筆ながら、種々ご教示下さり、たいへん貴重な標本を提供して下さいました緒方靖哉博士に深謝申し上げます。(東京農大、妹尾俊男)

○ウエノヒラタゴミムシ静岡県天城山の記録

ウエノヒラタゴミムシ *Colpodes (Atranodes) uenoi* (HABU) は、山梨県富士山麓青木ヶ原の溶岩洞を基産地として記載された好地中性のヒラタゴミムシである。富士山周辺の溶岩洞では少なからず採集されているようであるが、他地域での記録としては神奈川県箱根(田尾, 1984. 甲虫ニュース, No. 64: 8)の1例のみである。

筆者は過日、木下富夫氏より恵与された歩行虫類の標本中に天城山産の1頭を見出したので報告しておく。

1頭、静岡県伊豆天城山, 12. ii. 1979, 木下富夫採集。

貴重な標本を恵与された木下富夫氏に厚くお礼申し上げます。(神奈川県川崎市、田尾美野留)

○フチドリヒメヒラタタマムシ関東平野にも産す

フチドリヒメヒラタタマムシ *Anthaxia (Haplanthaxia) primorjensis* OBENBERGER 1935は、国外ではシベリア東部、朝鮮半島、国内では北海道、山形、福島、長野、山梨、岡山(未発表)、兵庫、大分(未発表)、対島の各地から知られていたが、関東平野からは記録がなかった。

1986年5月、主に水生甲虫調査のため埼玉県北本市を訪れた国際商科大学の阿部光典教授は、荒川河川敷の雑木林のクスギのスキージングにより本種

を再度にわたって採集されたので下記に報告しておく。標本をご恵与下さり、発表を許された阿部教授に深謝する。

1♂、埼玉県北本市石土宿, 11. v. 1986, 4♂♂, 同, 13. v. 1986, 阿部光典採集。

大分県の標本については黒沢良彦博士、岡山県については小林信之氏にご教示を頂いた。また、黒沢博士によれば、対馬で6月にアベマキのひこばえにて多数が採集されている由。貴重な情報をご教示下さった黒沢博士と小林氏に深謝する。

(神奈川県横浜市、秋山黄洋)

○ヤマトオサムシダマシ群馬県の記録

比較的南の地方で採集されることの多いヤマトオサムシダマシ *Blaps japonensis* MARSEUL が群馬県藤岡市内で採集されたので報告する。

藤岡市史編纂委員の布施英明先生より自宅内で採集されたという2頭の甲虫の標本を見せて頂いたところ、うち1頭が本種であった。畳の上をはっていたということであるが、西日本においても偶然に採集されることが多い種であるので貴重な記録と思われる。

1頭、藤岡市下栗須, 18. x. 1986, 布施英明採集。

なおもう1頭はユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes* (MARSEUL) であり、やはり部屋の中をはっていたということであるが、こちらの方は灯火にきた可能性もある。いずれにしても群馬県内での記録は珍しいと思われるのであわせて報告しておきたい。

1頭、同, 11. x. 1986, 布施英明採集。

最後になったが両種についていろいろとお教え頂いた益本仁雄氏、標本を下された布施英明先生に対し厚くお礼申し上げます。(群馬県伊勢崎市、須田 亨)

○岐阜県におけるミカワサビキコリの記録

ミカワサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) mika-waensis* ÔHIRA は愛知県渥美半島地方で採集された16頭の標本に基づいて昨年記載されたばかりのコメツキムシである。外形は日本各地に普通にみられるサビキコリ *A. (A.) binodulus binodulus* (MOTSCHULSKY) に類似するが、体は細長く、前胸背板はより平行状を呈することなどにより区別することができる。筆者はベルギー王室自然科学研究所より同定依頼された標本の中から岐阜県産の本種を見出したので、ここに記録しておきたい。この標本によって、本種は渥美半島だけではなく、より内陸の地域にも生息していることが明らかになった。

1♂, Japan: Gifu, Kasamatsu, vi-1954 S. BREUNING vendit (ベルギー王室自然科学研究所所蔵)。

参 考 文 献

ÔHIRA, H., 1986. Two new species and a new subspecies of Elateridae from Japan (Coleoptera). *Pap. Ent. pres. Nakane, Tokyo*, pp. 213-218. (東京農大、鈴木 互)

○慶良間列島の食葉性コガネムシ

筆者は、最近沖縄本島の西方約 30 km に位置する、沖縄県慶良間列島にある渡嘉敷島および阿嘉島で採集されたコガネムシを検査する機会を得た。沖縄本島と距離的に近いが、特にかわ立った差異はそれぞれの種類に見られないが、ほとんど記録のない地域であるので、ここに報告する。本報を書くにあたり、標本を快く提供下さった、東京農業大学昆虫学研究室の南 雅之氏並びに、伊藤 智氏に心よりお礼申し上げる。

渡嘉敷島, 2. v. 1986, 南 雅之採集。

1. リュウキュウカンショコガネ *Apogonia bicavata* ARROW 1 頭。

阿嘉島, 4. v. 1986.

2. オキナワクロコガネ *Holotrichia lochooana okinawana* (NOMURA)

1 頭, 伊藤 智採集。

3. オキナワシロスジコガネ *Polyphylla schoenfeldti* BRENSKE

5 頭, 伊藤 智採集; 2 頭, 南 雅之採集。

4. サンカクスジコガネ *Anomala triangularis* SCHONFELDT

16 頭, 伊藤 智採集; 2 頭, 南 雅之採集。

5. オキナワコカブトムシ *Eophileurus chinensis okinawanus* NOMURA

1 頭, 南 雅之採集。

6. オキナワコアオハナムグリ *Oxycetonia forticula forticula* (JANSON)

1 頭, 南雅之採集。(東京都練馬区, 小林裕和)

○山形県米沢市附近のナガゴミムシ類

山形県における山地性のナガゴミムシ類の記録は少ないと思われるので、以下の 4 種を報告しておく。

1. ニッコウオオズナガゴミムシ *Pterostichus* (subg. ?) *macrogenys* BATES

1 頭, 飯豊町小屋, 27. ix. 1986, 上野俊一採集。

処沢の焼坑で、イイデコヤメクラチビゴミムシ *Trechiana* (s. str.) *balli* S. UENO とともに採集された。

2. エチゴオオズナガゴミムシ *Pterostichus* (subg. ?) *asahinus* HABU et BABA

1 頭, 米沢市山梨沢, 6. vi. 1986, 筆者採集。

焼坑内に堆積した土石の下から、クサカリメクラチビゴミムシ *Trechiana* (s. str.) *kusakarii* S. UENO とともに採集された。

3. タナカナガゴミムシ *Pterostichus* (*Nialoe*) *latistylis* TANAKA

2 頭, 米沢市芝倉; 3 頭, 米沢市糸畔, 6. vi. 1986, 筆者採集。

小溪畔の石下より採集した。本種の基産地は関東の奥多摩・秩父山地で、地方型と思われるものが中部、東海、近畿北部を経て鳥取県東部まで広く分布している。分布の北限は新潟県妙高山や三国山地が知られているが、東北地方から記録されるのは初めてであろう。米沢産の個体は、基産地のものに比べると雄の腹板末節の突出部がより顕著で強く波曲し、やや 2 片状に張り出している。交尾器の右側片は、先端が切断状ではないが、かなり幅広い。

4. ミズギワナガゴミムシ *Pterostichus* (*Nialoe*) *asymmetricus* BATES

2 頭, 米沢市山梨沢; 1 頭, 米沢市糸畔; 4 頭, 2 頭, 米沢市芝倉, 6. vi. 1986, 筆者採集。

山梨沢の個体は焼坑の入口で採集したもので、複眼の後方がふくらんでいるが、他のものは、ふくらみが弱い。陰茎の先端は、すべて側方へまろく張り出すへら型 (spatuliform type)。右側片は、かなり細長い。

なお、米沢市産の 3 種は、チビゴミムシ類調査のために同地を訪ねられた国立科学博物館の上野俊一博士に随行した際に採集したものである。地中性歩行虫捕獲のためのトラップ設置という興味深い実習の機会をあたえてくださり、多大のご教示を頂いた上野博士、ならびに現地でお世話になった東北の自然社の草刈広一氏に末尾ながら厚くお礼申し上げます。(千葉県船橋市, 笠原須磨生)

甲虫談話会

会費 (一ケ年) 3000 円, 次号は 6 月下旬発行予定

投稿〆切は 4 月 30 日

発行人 上野俊一

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5 号 (各号 100 本 180 円)

なお、有頭針 00, 0 号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒 150 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥ 5,000, 桐合板製
インロー型標本箱中 ¥ 1,700, 送料一箱につき都
内及第一地帯: 3 個以下 ¥ 1,300, 4 個以上 ¥ 850
(以下同様), 第 2 地帯 ¥ 1,500, ¥ 950, 第 3 地帯
¥ 1,700, ¥ 1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作
販売しています。カタログを御請求下さい。(¥ 60)

タツミ製作所

〒 113 東京都文京区湯島 2-212-25
電話 (03) 811-4547, 振替 6-113479